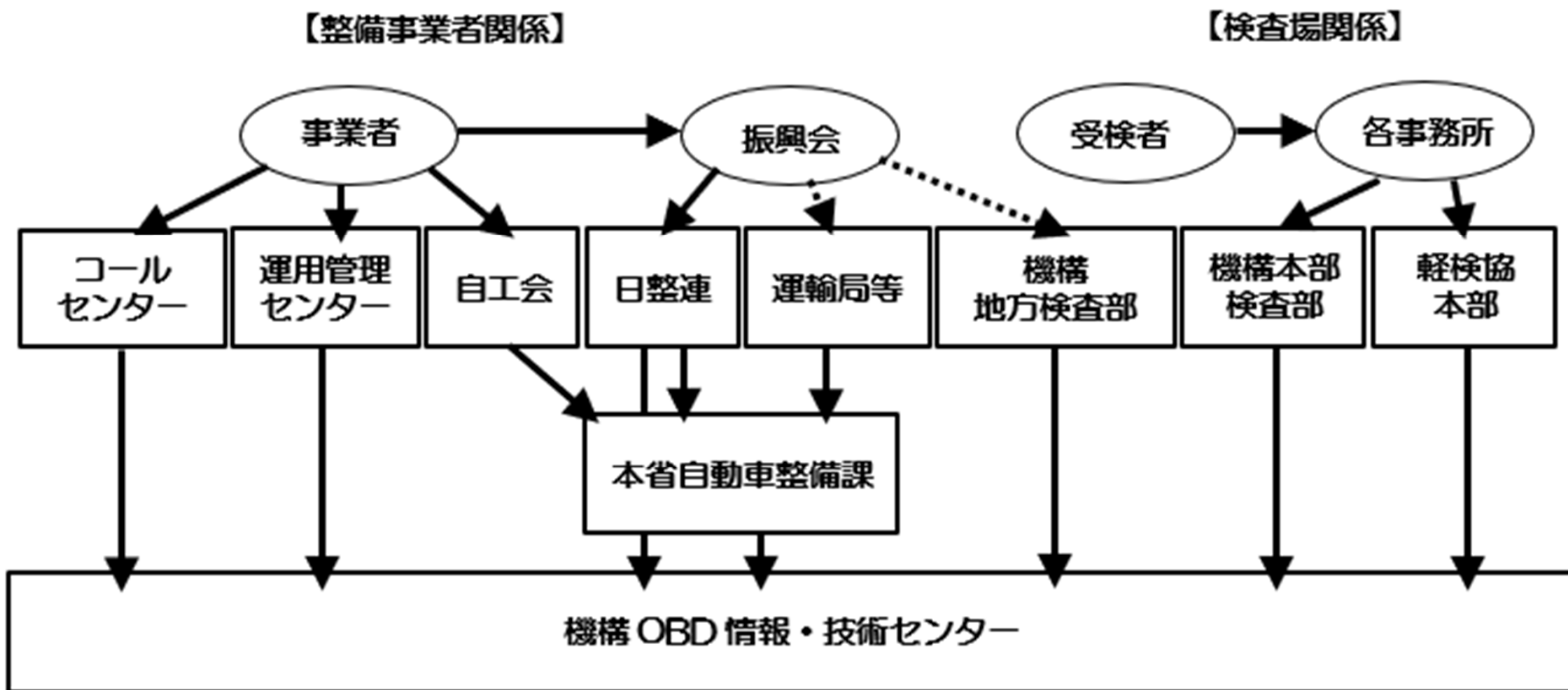


プレ運用等において明らかとなった課題

プレ運用等において明らかとなった課題の収集


- 10月1日から開始されたプレ運用を通じて明らかとなった課題について把握するため、整備事業関係者及び検査場関係者から情報収集を実施。
- 情報収集フローは下図のとおりであり、独立行政法人自動車技術総合機構において一元的に課題を集約することとしている。

※情報収集期間：令和5年12月2日～1月17日（左記期間以降も課題集約を実施中）



項番	意見元	課題	国土交通省、(独)自動車技術総合機構の対応
1	検査場	<p>車検証に記載されたVIN(車両識別番号)と車両ECUに記録されたVINが異なる車両が何件かあった。その中でも、</p> <ul style="list-style-type: none"> ECUに記録されたVINが表示される車両と、何も表示されない車両があった。 表示された車両でも、ECUに記録されたVINと車検証のVINの様式に違いがあった(ハイフンの有無) 	<ul style="list-style-type: none"> ECUへのVINの記録は、現行制度で義務付けられておらず、自動車メーカーが任意かつ自由に行っています。 実態として、自動車メーカーは、車検証に記載されたVINと同じものをECUにも記録していることが多いですが、一部には、ECUにVINが記録されていないこと、車検証に記載されたVINと異なること等があります。 このため、特定DTC照会アプリには、ECUに記録されたVINを読み出す機能がありますが、あくまで参考としてご覧いただき、車検証に記載されたVINを正式なものとして取り扱ってください。
2	検査場	<p>以下のエラーメッセージが表示された。 エラー:B496車台番号確認 (VIN情報と車台番号が一致しません VIN:URJ201W4***** 問題ないか確認してください。) 【対象車両】 URJ201-4***** (レクサスDBA-URJ201W、初度H28.4)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 上記の通り、<u>車検証情報に基づき入力したVINと、ECUから読み出したVINが異なることはあり得ます。</u> 自動車メーカー(トヨタ自動車)に確認したところ、当該型式の一部車両では、車台番号にない文字「W」が記録されている由です。
3	振興会	<p>車検証に記載されたVINと車両ECUに記録されたVINが異なる場合には、<u>車両ECUから読み出したVIN表示を、赤色か赤字表記にできないか。</u> (資料6-1別紙参照)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 上記の通り、<u>車検証情報に基づき入力したVINと、ECUから読み出したVINが異なることはあり得ますが、それ自体、問題があるものではなく、OBD検査を継続することは可能です。</u>ので、<u>過度な警告とならないようにする必要があります。</u> 他方で、車検証情報の誤入力により、結果的に、ECUから読み出したVINと異なることもあり、この場合には、ご提案のように注意喚起を行う意義があると考えます。 これらの2点を両立できる表示のあり方を検討します。

項番	意見元	課題	国土交通省、(独)自動車技術総合機構の対応
4	検査場	<p>外観検査後にVCI取り付けたところ、警告灯(燃料噴射システム、ABS、エアバッグシステム)が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにエラーメッセージが表示された。</p> <p>【対象車両】 ホンダDBA-GB4、初度H22.12</p>	<p>● 第3回準備会合資料6-2にある診断コネクタ-VCI間の接続不良等に起因するOBD通信中にエンジンチェックランプが点灯する事案と考えられます。</p> <p>(※対象車両は、ゲートウェイECU非搭載車)</p>
5	認証	<p>OBD確認を行った後に警告灯が点灯。その後、診断機を繋いだところ、以下のシステムに関連するエラーが表示された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ESP ○BCM ○ステレオカメラ ○ソナー ○カメラコントローラ 等 <p>【対象車両】 スズキDAA-MA36S、初度R1.8</p>	
6	認証	<p>OBD確認を行った後、衝突関係の警告灯が点灯した。アプリ上の表示は「適合」であった。</p> <p>検査後エンジン再始動時にはチェックランプは消灯したが、過去故障履歴として記録されていた。</p> <p>5回試行して100%再現されたため、第3回準備会合資料にある接触不良はないと考えられる。</p> <p>【対象車両】 「DAA-MA36S」 (スズキのソリオ(デュアルカメラ))</p> <p>アルト(デュアルセンサー)、キャリイ(デュアルカメラ)でも同様の事象が発生するとのこと(型式等不明)。</p>	<p>情報提供者の協力を得られ次第、調査を行う予定です。</p>

項番	意見元	課題	国土交通省、(独)自動車技術総合機構の対応
7	指定	<p>(第3回)準備会合資料で、プレ運用中に出た不具合が紹介されているが、チェックランプが点灯した原因が作業手順不良や元々車両不具合があったかのような記述となっている。<u>機構の検査官がVCIの取付作業をしているにも関わらず、差し込み不良や作業手順不良が本当に原因なのか。</u> 整備工場と同様の事象が発生し、ヘルプデスクに問い合わせても作業手順不良と回答されるのか。それ以外の原因は本当はないのか。 <u>機器やシステムに不具合はないと言っているようにしか見えないが、そちらは検証していないのか。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ● OBD検査サーバーへの接続性をはじめ、<u>OBD検査の実施にかかわる性能については、検査用スキャンツールの型式認定試験において1型式ずつ検証しています。</u> ● また、プレ運用中に全国で発生しているトラブルについて、広く収集・分析を行っており、このうち、<u>技術的なトラブルについては、機構OBD情報・技術センターのほか、自動車メーカー等の協力も得ながら1件ずつ原因究明を行っている</u>ところです。 ● その結果、<u>システム側に問題があるとされた件については、順次システムや制度の見直しを行っています。</u> ● 引き続き、プレ運用期間中にトラブルが発生した場合には、報告いただきますようお願いいたします。
8	検査場	<p>OBD検査実施のためデータリンクコネクタを確認したところ、以下の<u>装置が取り付けられており検査ができなかった。</u>…(中略)…ネジでも固定されている様な取付であった。</p> <p>当該装置はバッテリー電圧、走行・給油の履歴、駐車位置・時間、リアルタイムの車両情報などをスマートフォンで確認する「Mercedes me Adapter」と思われる。</p>  <p>【対象車両】 メルセデスベンツ DBA-156947、初度H30.12</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>データリンクコネクタに外部装置が取り付けられている状態は、「検査を受ける状態が整っていない」として、当該外部装置を取り外してから受検するように指導します。</u>

項番	意見元	課題	国土交通省、(独)自動車技術総合機構の対応
9	検査場	<p>OBD検査開始後、通常15秒程度のところ40秒ほどかかり、また検査結果が不適合と判定された。 不適合の内容を確認したところ「<u>レディネス 不適合</u>」、「<u>通信 不成立</u>」で、レディネスコードの詳細は空欄であった。 【対象車両】 DBA-ZRR70G</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 対象車両を調査したところ、<u>J-OBDⅠ排ガス規制のOBD検査対象外車</u>であることがわかりました。 ● 乗用車のOBD確認では、J-OBDⅡ排ガス規制で規定されたOBDⅡ規格の通信プロトコルで通信をおこないますが、当該車両は、OBDⅡ規格が採用されていないことから<u>通信が成立しなかったもの</u>と考えられます。 ● ご指摘を踏まえ、OBD検査対象外車のOBD確認実施可能な年式については、OBD検査ポータルで周知してまいります。
10	検査場	<p>差し込み不具合状態で検査実施すると、「レディネス不適合」と「通信不成立」、で不適合判定されるが、<u>通信に不具合があるときは検査する前にエラー表示できるようにしていただきたい</u>。 通信不良時においても1～6の項目を検査してから表示されており、また通常15秒程度で終わる判定が40秒ほどかかっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 通信に不具合がある場合には、システムは何度か通信を試みようとするため、判定に時間を要します。 ● ご提案の「<u>通信に不具合があるときはエラー表示する</u>」ことは、<u>検査の円滑に資する</u>と考えますので、<u>システム改修を検討</u>します。
11	振興会	<p>DTC照会アプリ内で車両情報を手入力して車台番号を誤ってしまったが、OBD確認できてしまう。OBD実施履歴を消去する方法はあるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● OBD検査結果の改ざん防止のため、<u>現状、検査結果を消去することはできない仕様</u>となっています。 ● しかしながら、ご指摘のようにOBD確認又はOBD検査を実施した整備工場が明らかに誤りに気付いているにもかかわらず、実施履歴が残り続けることは適当でないため、<u>一定の条件と手続で、検査結果を削除できるようにするシステム改修を検討</u>します。

項番	意見元	課題	国土交通省、(独)自動車技術総合機構の対応
12	指定 認証	<p>特定DTC照会アプリ起動時に以下のエラーメッセージが表示されて起動できなかった。 (ホンダ系ディーラー:同旨27件)</p> <p><u>コンフィグファイルが不正のため起動できません</u> (e101002002)</p>	<p>事業者と連携のうえ、原因を調査中です。</p>
13	振興会	<p>プレ運用中は、<u>型式認定を受けていないスキャンツール</u>であってもOBD検査を実施可とのことだが、アプリが検査用スキャンツールの型式を認識できるのであれば、本運用以降は、<u>型式認定を受けていないスキャンツール</u>については、<u>アプリ側で接続を拒否するか、警告を出す</u>といったような措置を取ってほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>ご要望を踏まえ、システム改修を検討します。</u>

項番	意見元	課題	国土交通省、(独)自動車技術総合機構の対応
14	認証	<p>認証工場併設の研修施設で研修目的でOBD確認を行いたい。 その際、届出している「点検整備作業場」で行わなければいけないのか。他の見やすい広いスペースを使って行いたい。また、研修にあたり、同一車両について数日おきに何度もOBD確認をおこなってもよいのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● OBD検査及びOBD確認は、認証又は指定を受けた「<u>事業場内</u>」であれば、どこでも実施可能とする通達案を作成しています。(参考資料1参照) ● 同一車両について、<u>何度もOBD確認を行うことも可能</u>。
15	指定	<p>(前回準備会合の議論の結果)プレ運用の対象車両は令和3年以降の車両になると聞いたが、これは<u>機構検査場だけか</u>。指定工場も令和3年以降の車両のみ実施でよいのか。それは車検証の初度登録年で判断するのか。これらについて国から案内する予定はあるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>機構・軽検協では、第3回準備会合の議論を踏まえ、プレ運用の対象を初度登録年月(初度検査年月)が令和3年1月以降の自動車に限定しています</u>。この点については、検査場において周知しています。 ● 他方、指定工場・認証工場では、機構・軽検協と同様に<u>対象車両を限定することも、或いは、これ以前の古い車両も含めてプレ運用を行うことも可能です</u>。いずれにしても、プレ運用期間中に処分や車検不合格といった不利益処分を受けることはありません。 ● 整備工場にも今後周知します。
16	振興会	<p><u>検査用スキャンツールのドライバ等バージョンアップによって認定対象から外れてしまうこと(※)について</u>、一般的にはバージョンアップというものは不具合等に対応し性能を向上させるために行われるものと認識している。<u>バージョンアップによって使えなくなってしまう恐れがある</u>とは、一般的な感覚からは相違がある。特定バージョン以降の認定スキャンツールであれば使用可能にならないのか。</p> <p>(※事務局注 機工協が公表する「検査用スキャンツール型式一覧」の注釈3:「<u>ファームウェアのバージョン</u>」及び「<u>ドライバのバージョン</u>」が上記のバージョンと異なる場合(上記のバージョンより新しいものも含む。)は認定の対象外になりますのでソフトウェア等をアップデートされる際にはご注意ください」の記述を受けたものと推察)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ツールメーカーが、型式認定を受けた検査用スキャンツールをバージョンアップする際には、あらかじめ機工協に届出(必要に応じて再試験)を行い、バージョンアップ後も検査用スキャンツールとして使用できることの確認を受けなければならないとしています。 ● このため、<u>バージョンアップを行うことにより、認定の対象外となることや、OBD検査サーバーに接続できなくなることはありません</u>。 ● なお、機工協が公表している「検査用スキャンツール型式一覧」の注釈3の記述を、よりわかりやすくするために以下の通り修正します。 「注釈3:「<u>ファームウェアのバージョン</u>」及び「<u>ドライバのバージョン</u>」が上記のバージョンと異なる場合は認定の対象外になりますのでご注意ください」

項番	意見元	課題	国土交通省、(独)自動車技術総合機構の対応
17	指定	<p>プレ運用ではOBD確認しかできないことを知らず、OBD検査を実行して上手くいかなかったため、スキャンツールメーカーや販売先に問い合わせしたが、的確な返答が得られなかった。ポータルサイトやアプリ上でもいいので、もう少し告知の方法があったのではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 周知が不十分で申し訳ございませんでした。 ● ご指摘を踏まえ、ポータルサイトにおいて、よりわかりやすく周知します。
18	指定 認証	<p>OBD検査の開始に向けて、費用面を含めユーザーの理解を得るため、国交省等から周知してほしい。現場(整備工場等)では、追加整備の理解が得られにくい現状がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ご要望を踏まえ、整備工場がユーザーに対し、OBD検査の必要性(法令で義務付けられたこと)、その料金が発生することをわかりやすく説明できるチラシを作成します。

表示イメージ

The screenshot shows a web interface for vehicle information input. A blue sidebar on the left contains a menu icon and the text '検証 読取'. The main area has a '車両情報 手入力' button. Below it are input fields for '車台番号' (0001) and '型式' (ガソリン), and a '入力内容クリア' button. At the bottom, there is a '車名' field containing 'マツダ' and a 'データリンクコネクタの位置表示' link. Three callout boxes highlight display issues: '現状' (Current) points to a yellow background with black text; '背景赤' (Red Background) points to a red background with black text; '赤文字' (Red Text) points to a yellow background with red text.

0

現状 車両から取得した車両識別番号は (NAL000011) です。

背景赤 車両から取得した車両識別番号は (NAL000011) です。

赤文字 車両から取得した車両識別番号は (NAL000011) です。

車台番号 型式

0001 ガソリン

入力内容クリア

車名 データリンクコネクタの位置表示

マツダ